

平戸城再築城の謎

平戸の歴史を語る上で、かかすことができない平戸城。この平戸城が、なぜ再築城されたかについてはあまり知られていない。建立・焼失・再築城、当時の資料をもとに平戸城が再築城に至るまでの歴史を紹介する



モンタヌスの『日本誌』に描かれている「日の岳城」

オランダの宣教師・歴史学者モンタヌスが、当時、平戸を訪れた東インド会社の職員の見解をもとに描かれた絵画。

必ずしも写実的なものではないとされるが、松浦家の家紋(写真中央下)などは、忠実に再現されている。



300年の時を経てよみがえる再築城の歴史

平 戸城の城主である、松浦家は、平安時代

末期から瀬戸内海の村上水軍とならんで賞讃されていた鎮西の水軍として、上松浦と下松浦に分かれて絶大な勢力を誇っていました。

当時、下松浦の棟梁であった平戸藩初代藩主、法印鎮信は、豊臣秀吉の九州征伐に従ったため、松浦郡の一角と舌岐を安堵され、慶長4年、平戸の亀岡に「日の岳城」を築城しました。これが平戸城の始まりです。

その後、家督を継いで日の岳城主となった平戸藩2代藩主、松浦久信が急死。

時の天下人である徳川家康は、豊臣秀吉と親交が深かった松浦家に疑いのまなざしを向けました。

法印鎮信は、その疑いを晴らすために、慶長18年、自ら日の岳城に火を放って焼却しました。その後、日の岳城の北側の山中に「御館」を構えて居館し、平戸藩6万1千石を守りました。

以来、松浦家は「御館」で過ごしますが、元禄15年、平戸藩5代藩主、松浦棟(たかし)は、徳川幕府に新たに築城を願い出て、翌年に許可されました。

その後、廃藩置県の廃城令により、平戸城は廃城解体されますが、1962年に復元され今に至ります。

平戸城の歴史

1599年	平戸城の現在の位置に「日の岳城」建立
1613年	「日の岳城」焼失
1613年	御館(現松浦史料博物館)を政庁にする
1702年	平戸藩が平戸城再築城を幕府に嘆願
1703年	幕府が平戸城再築城を許可
1718年	平戸城が完成
1871年	廃藩置県後の廃城令により廃城となる
1872年	廃城により狸櫓と北虎口門を残し、平戸城は解体
1962年	平戸城を復元
2006年	日本100名城に選定
2017年	キャッスルステイ(お城に泊まろう)初開催
2018年	平戸城再築城300周年記念事業開催

江戸幕府は、松浦家が嘆願した再築城を受け入れた

許可された真相は

当時は、幕府の許可がなければ、新築はおろか修理すらできない状況下であった
そんな中、平戸城が例外中の例外として、再築城が許可された背景とは

松 浦家が、日の岳城を自ら焼き払った後に、再築城に至るまでの経緯について専門家(浦部さん)久家さん(久)に聞きました。

再築城する目的

浦 城は、その藩のシンボリック的存在で、藩の防衛拠点、藩主の威厳を表しています。平戸藩はオランダ貿易が長崎に移されたことで、財政基盤が失われ、城下町も活気が無くなっていました。平戸城を再築し、藩の顔、藩主の威厳を取り戻すことで、領民の心に再び活気を取り戻そうとしたのではないのでしょうか。

久 当時は文治政治の下、



再築城を幕府に願い出た時に提出した平戸城の絵図

謀反の拠点にもなる城の築城は困難で、中でも松浦家のような外様大名には、とても無理な話だったと思います。日の岳城焼失から約90年は「御館」で平戸藩を運営していましたが、松浦家にとっては再築城は、悲願であったと思います。

松浦家と将軍の関係性

久 徳川家5代将軍、綱吉



平戸藩第5代藩主、松浦棟(まつらたかし)は、「奥詰」として将軍の直接的な補佐役(秘書)として従事していた。

の時代に、平戸藩4代藩主天祥鎮信の従兄弟、牧野成貞が、綱吉の側近として重用されていたことで、天祥鎮信も、江戸城内では城持ちの譜代大名と同列の処遇を受けます。城を持たない外様大名がこのような待遇を受けることは異例のことです。

浦 天祥鎮信の子、松浦棟(たかし)も、綱吉のそばで仕える大名「奥詰」として、幕府で従事し、綱吉から絶大な信任を得ます。そのことから、平戸藩に幕府から備蓄米5千石が預けられるほどの関係性となりました。



松浦史料博物館学芸員 久家 孝史氏



「御代々之覚書」は、平戸藩家臣、奥島正就が、当時の綱吉と松浦長(ながし)の関係を記した覚書。長の葬儀は、すべて幕府主導で行うなど記されている。

人と人が繋いだ絆

浦 平戸城の再築城は、松浦家や平戸藩にとって、悲願でありましたが、簡単に認められたわけではないというのが、これまでの歴史から

わかると思います。綱吉は、幕府の反対を押し切って「生類憐みの令」を出すなど、当時は絶対的な権力を持っていました。そして、松浦家が三代に渡り、綱吉との良好な関係を続けた成果が、再築城を許可させた最大の要因であると思います。そのような歴史を、平戸城再築城300周年を期に、たくさんの人に知ってもらいたいですね。

このタイミングだからこそできたと思います。実際、綱吉が死去するとすぐに松浦家の処遇が一転し、他の外様大名と同列の扱いになりました。この時であれば、許可などはおろか、申出すら門前払いで、認められなかったと思います。それぐらい、人と人とのつながりのおかげで、平戸城の再築城が許可されたんじゃないかと思えますね。

後世にも伝えつないでいくことは、学芸員である私たちの大切な役目だと思っています。

久 松浦家は、鎌倉時代から明治時代まで約650年、平戸を統治していました。これだけ長い期間、藩を統制していたのは全国的にも非常に珍しいです。その歴史の中で、こうしてつないできた人と人の絆を、私たちに伝えつないでいく時かと思えます。

平戸城再築城300年のこのタイミングだからこそ、松浦家が、みんなと一緒に、今一度、平戸の歴史を学びなさいって伝えていくのかもしれないですね。



平戸城施設長学芸員 浦部 知之氏

浦 今年は、平戸城再築城300周年で、城内で企画展や夜間のイルミネーションも行われています。また、再築城の歴史だけでなく、平戸の、さまざまな文化や歴史を紹介した企画展も行われています。もし、皆さんが平戸の歴史や文化に興味があれば、イベントや企画展にも足を運んでもらいたいですね。

今回、紹介した内容や資料については、松浦史料博物館に展示しています。また、平戸城にも、再築城以外の貴重な資料などが展示されていますので、下記の関連イベントと併せて、ぜひご来場ください。

平戸城再築城300周年記念事業関連イベントのご案内

忍者体験
10月7日(日)・8日(月)
忍者のコスチューム記念撮影会。手裏剣投げなどの無料ゲーム。
会場 平戸城本丸

伊賀流忍者忍具の展示
10月6日(土)~8日(月)
三重県伊賀市にある伊賀流忍者博物館より忍具約20点(レプリカなど)を借り受け展示。
会場 平戸城天守閣2階

伊賀流忍者ショー「嵐風刃」公演
10月6日(土) (1部)午後1時30分~ (2部)午後3時30分~
平戸城をバックに迫力ある、伊賀流忍者の公演ショーを行います。
会場 平戸城本丸

手作り鎧兜試着会
10月8日(月)
手作りの鎧兜などを試着出来ます。
会場 平戸城本丸

平戸市の文化財展
~10月31日(水)
市内の指定文化財を展示し、平戸の豊かな文化、自然を紹介。
会場 平戸城天守閣4階